

4 焼津地域まちづくり構想

4-1 地域の現状

■概況

本地域は、焼津市の北東部に位置し、面積は約 357ha で市域の約 5%を占めています。昭和 26 年に大村地域の一部とともに焼津町から焼津市へと市制が施行されました。

地域内には、市役所や焼津駅、焼津漁港などがあり、「さかなのまち焼津」の代表的な地域として商業、漁業とも活気があり、焼津市の中心地として発展してきました。

しかし、近年は、焼津市全体の道路の整備などが進むにつれて、商業、工業、住宅などが郊外に立地し、都心の空洞化や購買力の低下が進んでいます。今後は焼津市の中心地としての活性化が望まれる地域です。

焼津地域 位置図



■人口の推移

平成 27 年における本地域の人口は 13,986 人、世帯数は 5,953 世帯となっています。人口は減少傾向が、世帯数は横ばい傾向が続いています。

年齢 3 区分別人口割合は、15 歳未満及び 15 歳～65 歳未満が減少傾向に、65 歳以上が増加傾向にあり、少子高齢化の傾向が年々強まっています。特に、平成 27 年における 65 歳以上人口の割合は 31.6%で、高齢化率が 2 番目に高い地域となっています。

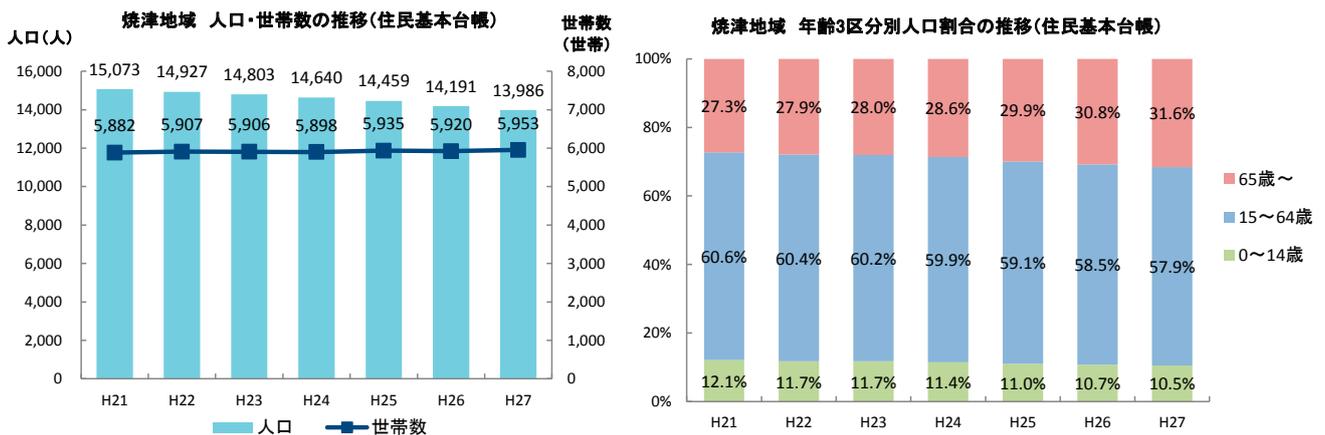


図. 焼津地域における人口・世帯数及び年齢 3 区分別人口割合の推移
(住民基本台帳より：H24 までは日本人のみ、H25 以降は外国人を含む)

4-2 地域の将来像

焼津地域の将来像

- 多くの市民や観光客でにぎわっているまち
- 焼津らしさがのこるまち
- 安全・安心で暮らしやすく活気のあるまち

4-3 地域のまちづくりの課題

◎焼津の中心地にふさわしいにぎわいづくり・生活環境づくり

- ・焼津駅から焼津漁港（焼津地区）周辺の市街地では、本市の中心市街地としてふさわしい、多くの市民、地域住民、観光客等が交流し、にぎわいを創出する魅力的なまちづくりを進める必要があります。特に焼津駅周辺においては、市の玄関口としてふさわしい、良好な街並み環境を創出する必要があります。
- ・焼津漁港（焼津地区・新港地区）周辺においては、「さかなのまち焼津」の基幹産業である水産加工業の維持・発展を図るとともに、焼津漁港親水広場ふいしゅーななどの観光資源を有効活用するなど、うるおいのある、魅力的な水辺交流空間を創出する必要があります。
- ・いつまでも住み続けることができる良好な住環境を創出するとともに、生活者や来訪者の利便性・安全性を高める交通環境を創出する必要があります。

◎うるおいのある水辺環境と由緒ある歴史文化資源の活用

- ・黒石川や小石川などの地域を流れる河川や、焼津漁港（焼津地区・新港地区）などの水辺をつなぐ、緑と水の風景を楽しめるうるおいのある歩行者空間の創出を図る必要があります。
- ・焼津神社や浜通りなどの由緒ある歴史文化資源は、本市の歴史・文化を次代に伝える重要な資産として保全するとともに、地域の個性的なまちづくりに有効活用する必要があります。

◎地域の活力向上と、地震・津波などの自然災害への備えの充実

- ・地域活動の中心地である焼津公民館などを有効活用したまちづくりを進める必要があります。
- ・地震による津波被害の防止・軽減を図るため、焼津漁港（焼津地区・新港地区）周辺において、静岡県との協働により津波対策を進めるとともに、避難地や避難路の整備などによる安全確保を図る必要があります。
- ・大雨時の河川氾濫・道路冠水等を防止するため、瀬戸川、小石川、黒石川などの地域を流れる河川とその流域について、総合的な治水対策を進める必要があります。
- ・過去の自然災害の発生状況や教訓をもとに、自然災害に対する危険性や正しい知識を習得するなど、地域住民の防災意識の向上と防災活動の充実を図る必要があります。

4-4 地域のまちづくり方針

①焼津駅から焼津漁港（焼津地区・新港地区）周辺における、にぎわい・交流を創出するまちづくり

- ・都市拠点である焼津駅周辺においては、本市のにぎわいの中心地となる拠点の形成を図るとともに、公共交通の結節点に位置するメリットを活かし、商業機能・公共公益機能・居住機能など、主要な都市機能の集約を図り、生活交流・観光交流を促進していきます。
- ・中心商業・業務地である焼津駅周辺一帯においては、さまざまな人の交流によるにぎわい空間を創出するため、「中心市街地活性化基本計画」を踏まえ、市民や観光客等のニーズに対応し、地域固有の資源や空き家・空き地等を活用しながら、新たな都市機能の誘導も検討していく、市の玄関口にふさわしい魅力的なまちづくりをします。また、子どもから高齢者まで誰もが、安全・安心・快適に通行できる空間づくりに努めるとともに、低・未利用地を活用し、集い、憩うことのできる場を提供できるように、観光客も視野に入れた環境づくりを進めます。



焼津駅周辺（焼津イルミネーション）

- ・産業・観光交流拠点である焼津漁港（焼津地区・新港地区）周辺においては、にぎわい拠点として形成しつつ、物流・生産機能の充実などにより、産業の振興を図るとともに、産業を通じた観光交流を促進していきます。
- ・一般住宅地においては、昭和通り周辺などの中心商業・業務地、（都）焼津駅道原線、（都）鯛ヶ島八楠線などの沿道サービス地と共存を図るとともに、安心して子どもを産み育てられ、高齢者が地域において安全・安心・快適な生活を営むことができる環境づくりに努めます。また、地域住民の日常の足の確保と利便性向上のため、利用需要に応じた公共交通ネットワークを検討します。

②焼津神社や浜通りなど、地域の歴史文化資源を活かした景観まちづくり

- ・瀬戸川、小石川、黒石川など地域ならではの自然資源を結ぶ、豊かな水と緑を市民が身近に感じることができるまちづくりを進めます。
- ・多くの市民や観光客が訪れる焼津駅周辺において、本市の玄関口としてふさわしい、にぎわいと風格のある魅力的な街並み景観の形成を図ります。

- ・ 浜通り、焼津神社、日本武尊石像、小泉八雲記念碑などの地域ならではの歴史文化資源を守り、活かすための地域独自の景観まちづくりを推進します。
- ・ 季節感を大切にする生活や伝統的な知恵を活かした新たなライフスタイルの転換など、特色ある地域力を活かしながら、地球温暖化防止に向けた取組を進めます。



浜通りのあかり展

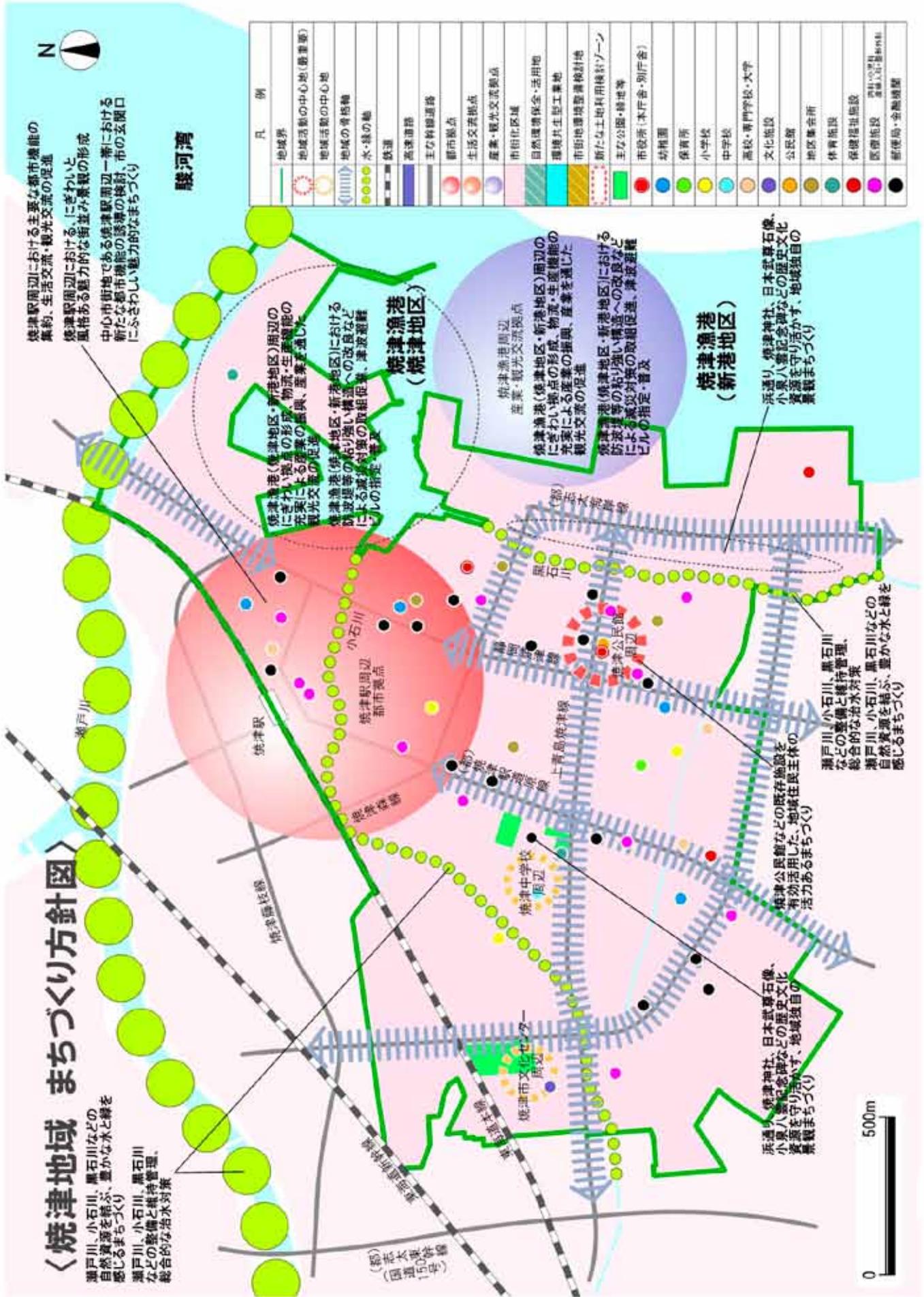
③焼津公民館などを活用した地域住民主体の活力あるまちづくりと、 焼津漁港など地域の特性を踏まえた防災・減災まちづくり

- ・ 焼津公民館などの地域活動の中心地にある既存施設を有効活用して、子どもから高齢者まで誰もが集い憩うことができ、レクリエーション活動を楽しめる環境づくりに努めるとともに、地域住民主体の活力あるまちづくりを進めます。また、平時から自主防災会との連携を図りながら、災害時には地域の防災拠点として機能を果たせるよう努めます。
- ・ 焼津漁港（焼津地区・新港地区）において、漁港の管理者である県が実施する、防波堤等の粘り強い構造への改良などによる減災対策の取組を促進します。また、津波から迅速に避難することができるよう、地域の実状に合わせて、民間中高層建築物の津波避難ビルの指定・普及に努めます。



焼津漁港（新港地区）の陸間

- ・ 台風や集中豪雨などに起因する水害の防止・軽減を図るため、瀬戸川、小石川、黒石川などでは、河川の特性を踏まえた整備と維持管理を進めるとともに、総合的な治水対策を推進します。
- ・ 地域の子どもから高齢者まで誰もが、普及・啓発活動や防災教育等を通じて、防災意識を高揚させるとともに、災害ボランティア活動への参画を促進し、地域における防災活動を積極的に支援します。



焼津駅周辺における主要な都市機能の集約、生活交流・観光交流の促進
 焼津駅周辺における「にぎわいと風情」ある魅力的な街並み景観の形成
 中心市街地である焼津駅周辺一帯における新たな都市機能の誘導の検討、市の玄関口にふさわしい魅力的なまちづくり

駿河湾

〈焼津地域 まちづくり方針図〉

瀬戸川、小石川、黒石川などの自然資源を結ぶ、豊かな水と緑を感ずるまちづくり
 瀬戸川、小石川、黒石川などの整備と維持管理、総合的な治水対策

焼津漁港(焼津地区・新港地区)周辺の「にぎわい」拠点の形成・物流・生産機能の充実による産業の振興、産業を通じた観光交流の促進
 焼津漁港(新港地区・新港地区)における防災対策の強化・構造への改良などによる防災対策の取組促進、津波避難ビルの指定・普及

焼津漁港(焼津地区)

焼津漁港(焼津地区・新港地区)周辺の「にぎわい」拠点の形成・物流・生産機能の充実による産業の振興、産業を通じた観光交流の促進
 焼津漁港(新港地区・新港地区)における防災対策の強化・構造への改良などによる防災対策の取組促進、津波避難ビルの指定・普及

焼津漁港(新港地区)

浜通り、焼津神社、日本武尊石像、小原八幡記念碑などの歴史・文化資源を守り活かし、地域独自の景観まちづくり

瀬戸川、小石川、黒石川などの整備と維持管理、総合的な治水対策
 瀬戸川、小石川、黒石川などの豊かな水と緑を感ずるまちづくり

焼津神社、日本武尊石像、小原八幡記念碑などの歴史・文化資源を守り活かし、地域独自の景観まちづくり

焼津公民館などの既存施設を有効活用した、地域住民主体の活力あるまちづくり